

みやぎ農園 平飼い卵原料に関する虚偽表示事案報告書

2025 年 12 月 4 日

沖縄鶏卵販売株式会社

1. 概要

当社仕入先である 株式会社みやぎ農園（以下「みやぎ農園」という。）が出荷する「平飼い卵」について、

原料の一部に平飼いではない他社製の卵を意図的に混入していた 事実が判明した。

当社は本件を受け、対象商品の 即時回収および返金対応 を行う方針とし、現在対応を進めております。

2. 経緯

1. 2025 年 11 月上旬頃

当社は、みやぎ農園の平飼い卵について

「実際には平飼いではない他社製卵が原料として混入している可能性がある」

との情報を得た。これを受け関係者への聞き取り等による事実確認を開始した。

2. 2025 年 12 月 4 日午前 9 時

当社担当者がみやぎ農園を直接訪問し、上記疑義の内容について説明と事実確認を求めたところ、

みやぎ農園側は、平飼い卵の在庫が不足した際に、他社の平飼いではない卵を一部混入して出荷していた ことを認めた。

3. みやぎ農園の説明によれば、

- 自社平飼い卵の生産量が出荷量・発注量を下回った時期に
 - 発注数量を満たす目的で、他社卵を一部・一時期利用した
- とのことであり、結果として「平飼い卵」としての表示と実態が一致しない出荷が行われていた。

3. 宮城農園からの現時点での回答概要

当社はみやぎ農園に対し、文書にて以下の事項について照会を行い、

現時点で、みやぎ農園小田氏、新里氏より下記のとおりのお返事を得ている（※いずれも先方回答に基づく概要であり、正式書面は別途）。

（1）いつごろからこのような行為を行っていたか。

- 宮城農園回答：

2018 年ころから。現在詳細を確認中。

（2）弊社には虚偽の卵を卸していないとのことだが、その証明は可能か。

- 宮城農園回答：

- 担当者の認識不足があり、御社向け(沖縄鶏卵)においても、発注量に満たない場合には一部他社卵を混ぜていた。
- 「ほぼ自社卵 100%」であるが、一時期・一部、不足時に他社卵を利用していた。

→ 上記回答から、当社向け納品分についても、発注量不足時に一部他社卵を混入していたことを認めている 状況である。

(3) どのレベルの虚偽表示か。完全に他社の卵を出荷していたのか一部なのか。一時期なのか継続的なのか。

- 宮城農園回答：

- 上記時期(2018 年ころ)より、他社の卵を一部・一時期利用して出荷していた。
- 完全に他社卵のみを出荷したのではなく、あくまで一部混入であるとの説明。

→ 先方説明によれば、「一部混入」かつ「一時期」との認識であるが、具体的な期間・頻度・混入割合については現時点で明確になっていない。

(4) 当該行為を決定・指示した者の役職・氏名

- 宮城農園回答：

- 株式会社みやぎ農園 会長 宮城 盛彦

→ 虚偽表示行為に該当する混入の決定・指示は、同社会長である宮城盛彦氏によるものであったとの回答を得ている。

(5) 当該行為に至った経緯および背景(在庫・価格・生産量等の事情)

- 宮城農園回答：

- 出荷量が自社の生産量を上回った時期を境に、発注量を確保する目的で、他社の卵を一部・一時期利用した。
- 状況改善のため、3 年前より鶏舎増築を進め、自社生産 100%とする体制整備を図っている。

→ 背景として、生産能力を上回る受注・出荷を継続した結果、在庫不足を補うための他社卵混入が行われた との説明である。

(6) 貴社として、本件をどの時点で認識したか、その経緯

- 宮城農園回答：

- 上記時期(2018 年ころ)より、発注量に満たない場合には、一部・一時期

利用していた認識であった。

- 状況改善のため、約3年前から鶏舎増築を行い、自社生産100%体制にすることを目指している。

→ 宮城農園側は、当初より不足分を他社卵で補っていたことを認識していたと読み取れる回答内容であり、認識の欠如というより、判断の誤り・法令および表示の重要性に対する認識不足が背景にあると推察される。

4. 当社の対応状況

1. 宮城農園の平飼卵を原料とした商品のうち、本件の影響が及ぶ可能性のあるロットについて、
即時出荷停止および在庫隔離の措置を実施した。
 2. 対象商品を納品した取引先に対し、順次連絡を行い、
回収および過去すべてのみやぎ農園産卵の返金対応も検討し進めて参ります。
 3. 宮城農園に対しては、上記回答内容を含めた正式な書面による報告書を、2025年12月4日午前中までに提出するよう依頼しているが、提出は午後7時40分である。
-

5. 現時点での認識および課題

- 宮城農園は、少なくとも2018年頃から、平飼卵の在庫不足時に他社の平飼卵ではない卵を一部混入して出荷していたことを認めている。
 - 当社向け納品についても、発注量を満たさない場合に一部他社卵を混入していた旨の回答があり、
当社としても「平飼卵」として販売されていた商品に、表示と異なる原料が含まれていた可能性が高いと認識している。
 - しかしながら、
 - 具体的な実施期間（開始・終了時期）、
 - 対象ロット・数量・混入割合、
については、宮城農園からの正式報告書未提出により、依然として確定していない。
 - 当社としては、本件を
 - 表示と実態の不一致による虚偽表示行為
 - 取引先および消費者の信頼を損なう重大事案と認識している。
-

6. 今後の対応方針

1. 宮城農園からの正式報告書の受領・精査

- 正式書面を受領次第、内容を精査し、実施期間・対象ロット・数量・混入割合等の影響範囲を確定する。
- それを踏まえ、追加の回収・返金が必要な場合は速やかに実施する。

2. 取引先・関係先への説明

- 本報告書およびみたぎ農園からの正式回答を踏まえ、取引先へ順次説明を行う。
- 必要に応じて、「お詫びとご報告」の文書を発出し、誠意ある対応に努める。

3. 当社内部の再発防止策

- 表示・飼養形態等に特徴のある商品の仕入先に対する確認・監査体制の強化。
- 生産能力と出荷数量の整合性を定期的にチェックする仕組みの構築。
- 仕入契約書への表示責任および虚偽表示発覚時の責任範囲の明記。
- ロットトレース（トレーサビリティ）の一層の徹底。

7. 補足

- 現時点では、当該卵自体の 衛生・安全性に関する重大な問題は確認されていないが、表示内容と実際の飼養形態が一致していないことにより、消費者・取引先に対する信頼を損なう重大な問題と認識しております。
 - 宮城農園から正式な報告書が提出され次第、本報告書の内容を必要に応じて更新し、改めて関係先へ報告致します。
-

以上